2023年度2学期面接授業

「心理検査法基礎実習」K レポート用紙①

学生番号　　　211-003199-6　　　　　氏名　　　　牛根　嘉孝　　　　.

検査名：　TEG3 ＜集団実施＞

・検査者：　牛根 嘉孝　　　被検査者：　牛根 嘉孝（36歳、男性）

検査年月日：　2023年11月11日（土）13:49～　所要時間：5分

・検査実施時の様子：　実施前の様子は、13時に食事を摂ったあと、午前中の講義の疲労感に対ししっかり

休憩を取っていた。また、姿勢よくペンをとっていた。実施中は、先生が何か言われていたが、飛行機の音で

聞こえなかったのか、周囲を見渡す様子が見られた。実施後、プロフィールを予想する講義場面があったが、

その前にプロフィール結果を出してしまっていた。

・主な結果：　CP＝12、NP＝12、A＝18、FC＝8、AC＝14、L=0、Q=0が明らかになり、プロフィールの型はＡ優

位であった。また、全体的なプロフィールの位置は高めであった。加えて、妥当性が高いことも分かった。

・所見：　検査の前にしっかりと休憩をとっていた点に加え、Ａ優位の結果が導き出されたことから、能率性、

生産性の高さが示された。一方、やや能率的すぎるためか、時には早合点の傾向となることも暗示された。

検査名：　BDI-Ⅱ ＜集団実施＞

・検査者：　牛根 嘉孝　　　被検査者：　牛根 嘉孝（36歳、男性）

検査年月日：2023年11月11日（土）　14:50～　所要時間：4分

・検査実施時の様子：　実施前は、目をしばしばさせ表紙を見ていた。実施中、先生の説明があるとペンを止

めてしっかり聞く様子が見られたが、表情はややぼーっとしている様に感じられた。実施後、腕を組んで休ん

でいる一方、BD-Ⅱの講義資料を先読みしていた。他方、自殺念慮の項目は0点であった。

・主な結果：　BDI-Ⅱ=6点が明らかになり、０-13点範囲内であることから、極軽症が示された。また、選

ばれた項目は、悲しさ、悲観、被罰感、激越、活力喪失、疲労感であるが、得点はすべて1点であった。

・所見：　確かに、目をしばしばさせたり、ややぼーっとした様子や、腕を組んで休む様子は、講義後半であ

ること、食後2時間であることから、一時的な眠気の可能性もある。しかし、BDI-Ⅱ=6点（極軽症）である

こと、選択された項目に悲しさがあることは明確である。したがって、悲しみには深刻な背景がある可能性も

あり、何か悲しいことがあったのか等、丁重に聞いてみることも検討する余地があるだろう。

検査名：　バウムテスト 二枚法 （1枚目：枠なし、 2枚目：枠あり）＜集団実施＞

・検査者：　牛根 嘉孝　　　　被検査者：　牛根 嘉孝（36歳、男性）

 検査年月日：　2023年11月11日（土）15:50～　　所要時間：9分

・検査実施時の様子

実施前、放送大学の教材である心理的アセスメント（'20）のp.51をさらっと読んでおく様子がみられた。

実施中、まず、木の幹から書き始め、ささっと書いたかと思うとすぐ消した。つぎに、幹をよりハの字に書き、

遠近がはっきり分かるように書き直した。その後、枝、葉、実、根の順で書き、葉と実を付け加えた。一方、

枠ありでは、枝、幹、根、葉、実の順で書き、途中で付け加えることはなかった。実施後、本人に直接聞いた

わけではないが、1枚目（枠なし）に比べ、2枚目（枠あり）ではやや満足そうな表情に感じられた。

・主な結果

　紙面いっぱいに描いた窮屈そうな樹幹に対して、根から地面は６ｃｍほどの余裕があった。また、根は太く、

幹は広葉樹のような複雑な陰影があり、境界線はハの字で明確に描画されていた。さらに、幹から枝にかけて

は2本線であるものの繊細につなぎ合わせており、本物のように全方位に描かれ、すべて10°~90°の上に向

いていたうえ、約35本の枝の先端はすべて閉鎖していた。加えて、やや鋭利な葉は、すべての枝の先端に集

合体で描かれ、その中にマルベリーのような黒くて小さな実がバランスよく大量に散在していた。一方、

2枚目（枠あり）も同じ種類の木が描かれていたが、明確な点は、幹の中にも枝葉が描かれ、その左側には

出っ張ったウロが木の高さの中央部分に見られた。また、さらに左側には2本の枝葉が左45°下に向いてい

た。他方、強調された点は、樹幹がより大きく窮屈になり、枠と接触していたうえ、根もより太くなり、

根から地面は2cmと狭まった。また、幹の陰影も濃くなり、枝の先端の数も約50本に増えていた。

・所見

1枚目（枠なし）では、木が上のバランスに描かれているが、空間象徴的に捉えるならば、理性的なパーソ

ナリティであることが暗示される。また、幹の陰影や、細かな枝分かれを病的現象の理解として捉えるならば、

丁寧であり、やや神経質である可能性も考えられる。一方、2枚目（枠あり）では、左側のウロが注目される

が、ヴィトゲンシュタイン指数によると、18歳前後の外傷体験が推測されるという考え方もある。また、空

間象徴的理解にもとづくと、過去の内省的な出来事があったと捉える方法もある。さらに、ウロの左側にある

2本の枝葉が左45°下に向いているが、気分が落ち込むような出来事であったのだろうと仄めかされる。

加えて、2枚目（枠あり）では、さらに樹幹が大きくなり、枠と接触している。したがって、枠にはめると、

過去の外傷体験を思い出し、神経質になる一方、昇華して対処しようとする傾向があることが仄めかされる。

2023年度2学期面接授業

「心理検査法基礎実習」K レポート用紙②

学生番号　　　211-003199-6　　　　　氏名　　　　牛根　嘉孝　　　　.

検査名：　YG性格検査 ＜集団実施＞

・検査者：　牛根 嘉孝　　　　被検査者：　牛根 嘉孝（36歳、男性）

検査年月日：　2023年11月12日（日）9:55～　　所要時間：15分

・検査実施時の様子

実施前、他の検査者より少し時間がたって練習を開始した。一度書いてしまえば、さらさらと書き終えた。

実施中、1項目7秒程度で一定して〇つけし、全項目スピードはほとんど変わらなかった。また、〇は線にな

ぞって正確に書かれていた。実施後、YG性格検査の説明を読んでいたが、表情が変化し、ずっと難しそうな

表情で経過していた。

・主な結果

　まず、検査態度は良好で、△回答は3つであることから、結果の妥当性に問題はみられなかった。また、

12因子のうちD＝7、C＝2、I＝2、N＝8、O＝4、Co=12、Ag=4、G =11、R=1、T=0、A=10、S=8が明らかとなった。

これにより、類型はC型（平穏型）が示された。一方、12因子のまとまり具合に着目すると、C型（平穏型）

の類型のなかでも特にR（のんきでない特性、標準点1、パーセンタイル約3%）、T（思考的内向性の特性、

標準点1、パーセンタイル約2%）の2因子が突出して低いことが示唆された。他方、C型（平穏型）の類型

とは対照的に、Co（非協調的特性、標準点4、パーセンタイル約80%）、A（支配的特性、標準点3、パーセン

タイル約60%）の2因子が比較的突出して高いことも示唆された。

・所見

　冷静沈着に受検を開始した点、安定的かつ正確に作業をすすめていった点から、C型（平穏型）の類型が示

されたことに矛盾はないと思われる。一方、C型（平穏型）とは裏腹に、受検終了後も、難しい表情でYG性

格検査の説明を読んでいる場面がみられた。確かに、120項目に及ぶ心理検査の受検に不慣れであることも考

えられる。しかし、特性論的に理解を深めるならば、内省的特性と非協調的・支配的特性がやや葛藤している

部分があり、自己内に複雑な心境やつらさ、問題点などを抱えやすい特性があることも関係している可能性が

考えられるだろう。また、ネガティブな感情は表情で伝播しやすいとされている。したがって、C型（平穏型）

ではあるが、ストレスを抱え込みやすく、時にはやや非協調的になってしまう側面があることも考えられる。

・総合所見

検査結果から、被験者は能率性と生産性が高く、冷静かつ沈着な態度で心理検査に臨む一方で、一時的な眠

気や早合点の傾向が見られることが示唆された。TEG3検査においては、検査前の休憩と姿勢の良さから能率

性の高さが浮かび上がり、結果もA優位で全体的な位置が高かった。ただし、時折の早合点が指摘され、バラ

ンスの取り方に注意が必要かもしれない。

BDI-Ⅱ検査では、一時的な眠気や食後の影響も考えられたが、極軽症（０-13点）の結果が示された。しか

し、選ばれた項目に悲しさが見られ、何か悲しい出来事があった可能性が示唆された。丁寧な質問によって、

感情面の理解を深めることが求められる。

バウムテストでは、枠なしと枠ありでの描画の違いから、被験者が外傷体験や過去の内省的な出来事を抱え

ている可能性が浮かび上がった。また、YG性格検査では、C型（平穏型）が示され、冷静な態度と一貫性が

見受けられたが、内省的特性と非協調的・支配的特性がやや葛藤しており、ストレスを抱え込みやすくなって

いることが示唆された。

総合的に見ると、被験者は一般的に冷静でありながら、感情面での複雑な側面が垣間見える。また、能率性

が高い反面、時にはやや早合点や非協調的・支配的な傾向がある。さらに、早合点や非協調的・支配的な傾向

は、人間関係において、ややマイナスな方向に影響する可能性も考えられる。したがって、被験者の状態は

単なる一時的な問題ではなく、悩みや障害が絡んでいる可能性も考えられる。結論として、感情やストレスへ

の対処法に焦点を当てることに加え、これらの問題の根本原因を丁重に探り、長期的なサポートやコミュニケ

ーションの機会を提供することが、より深い理解と健康な心の状態を促進することにつながるだろう。